

オリックス株式会社

2020年3月期第1四半期 決算ハイライト

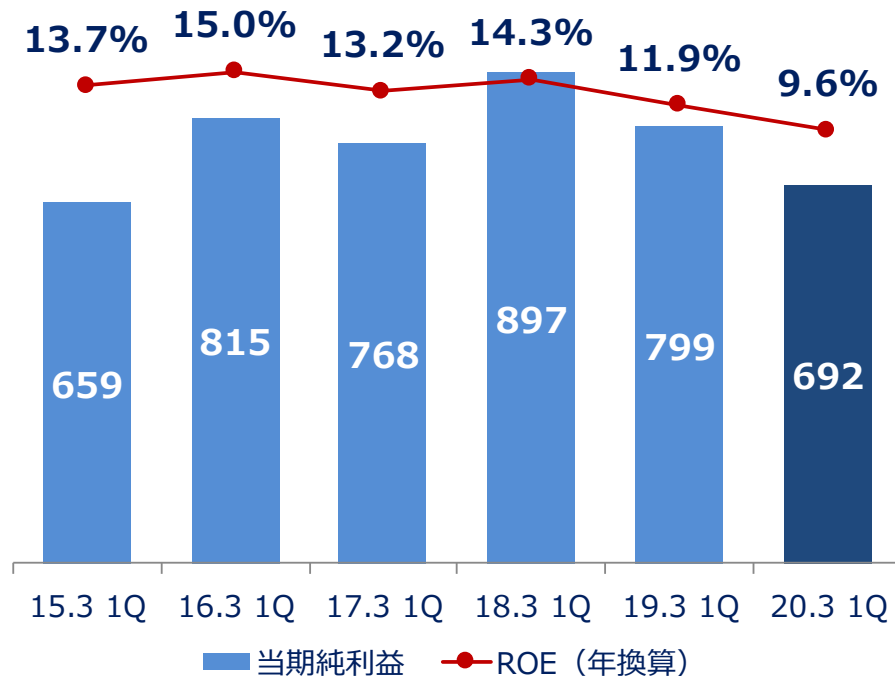
2019年7月29日

業績総括（1）当期純利益 / ROE

- ✓ 当期純利益は692億円（前年同期比13%減）、ROE（年換算）は9.6%
- ✓ 売却益は過去数年より少ないが、売却益以外の利益は増加傾向を維持（次ページご参照）

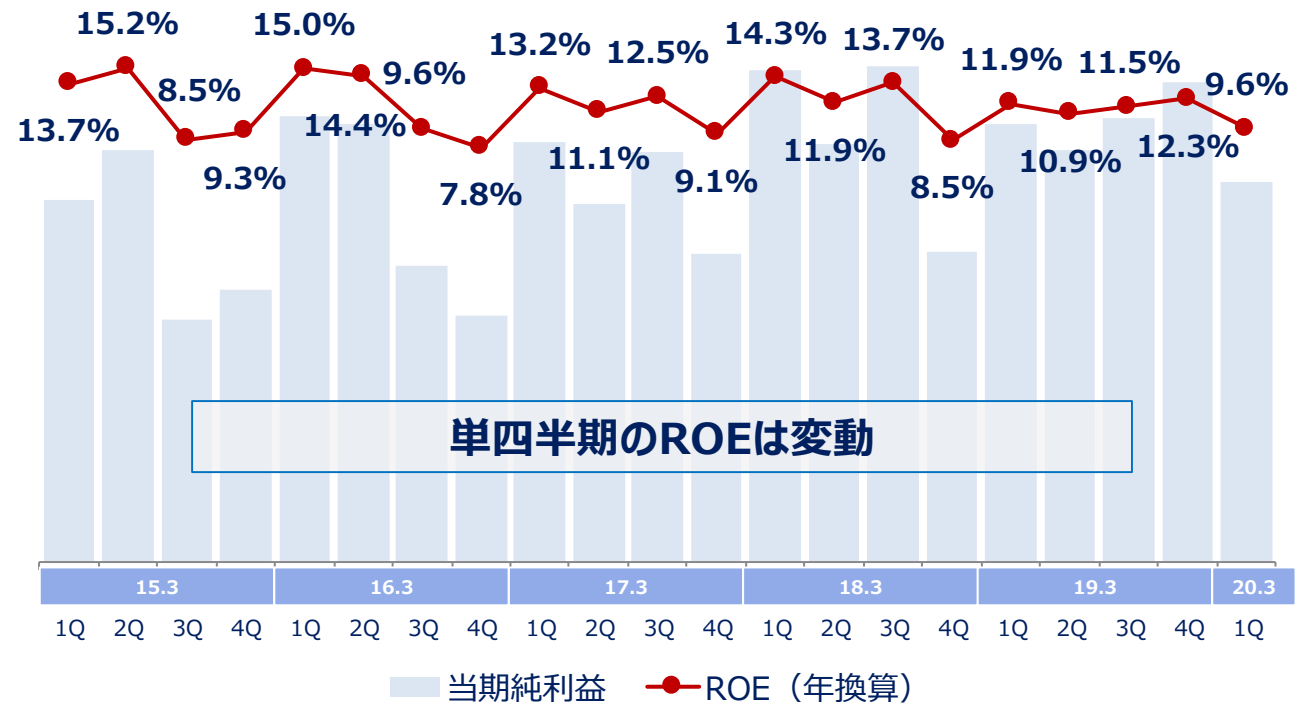
当期純利益※とROE

(億円)



※「当期純利益」は「当社株主に帰属する当期純利益」を指します。

ご参考:過去5カ年のROE



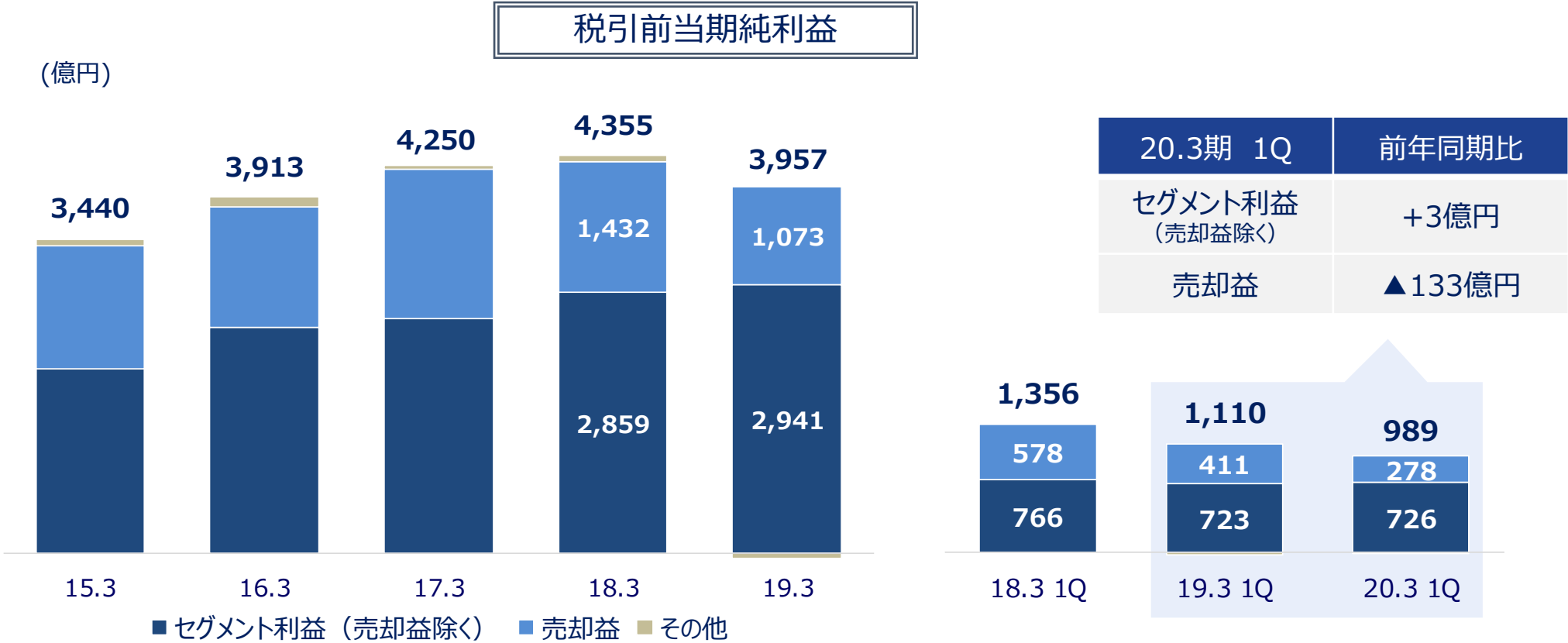
単四半期のROEは変動

セグメント利益
(売却益除く)

売却益

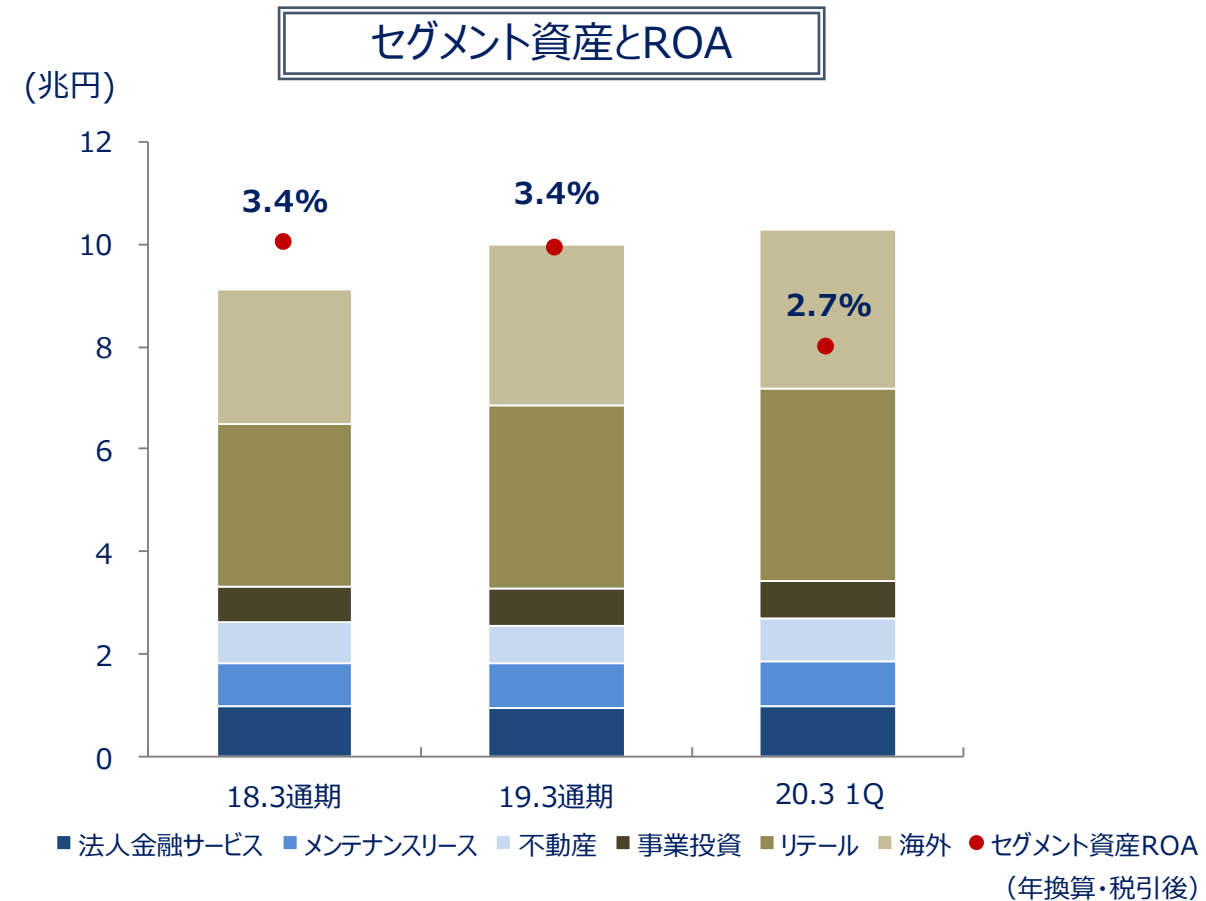
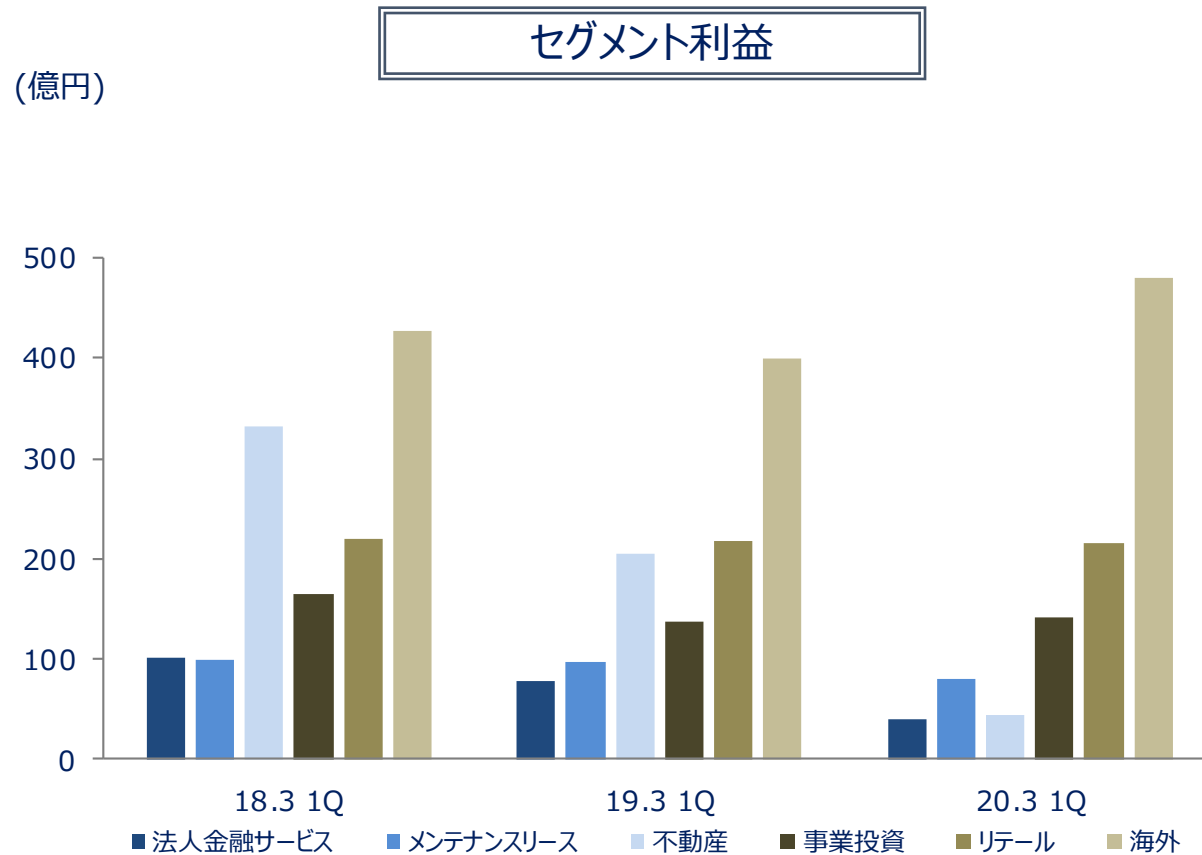
過去5ヵ年 : 安定的に推移/成長
20.3期 1Q : 19.3期の新規投資案件（NXT Capital、Avolon）が貢献
20.3期 1Q : 前年同期比では減少したものの、278億円と一定水準を確保

※主な売却益：賃貸不動産売却益、子会社・関連会社株式売却益、有価証券売却益など



業績総括（3）セグメント利益 / セグメント資産

- ✓ 法人金融：生命保険の代理店手数料収入や金融収益の減少の影響により減益
- ✓ 不動産：前年同期に計上した大口売却益の影響により減益
- ✓ 海外：19.3期に実行したNXT Capital、Avolonが利益貢献



セグメント別業績（1）法人金融サービス

※1億円未満を四捨五入して表示しているため、各ビジネスユニットの合計値は、必ずしもセグメント数値とは合致しません



セグメント利益：41億円

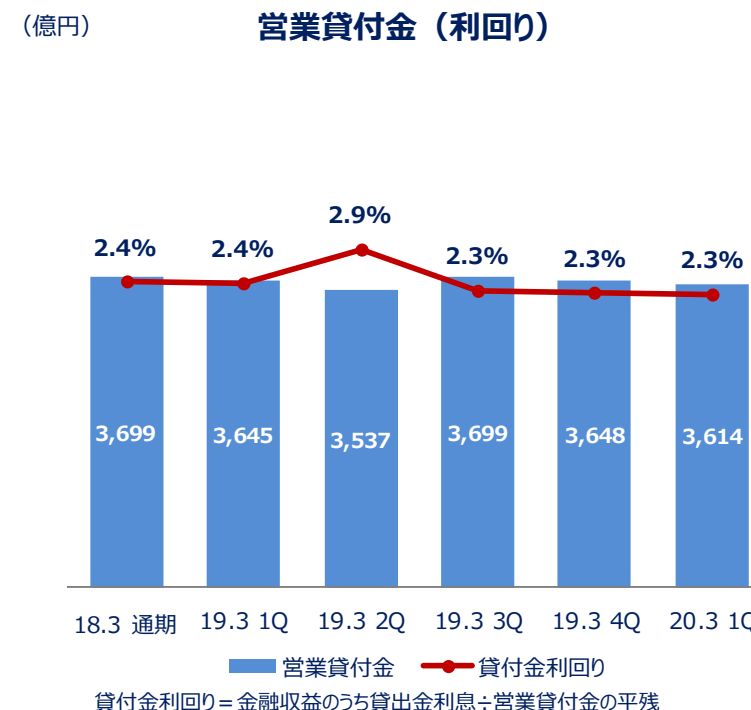
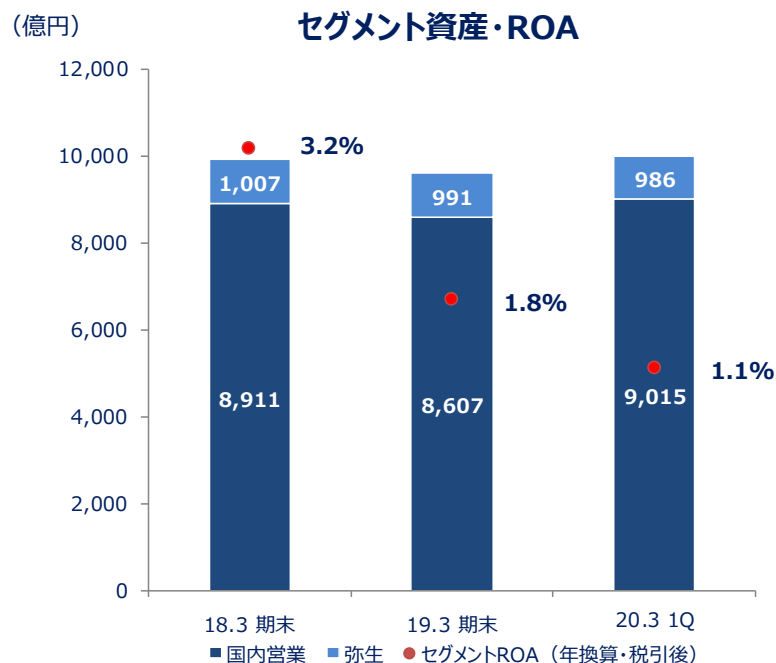
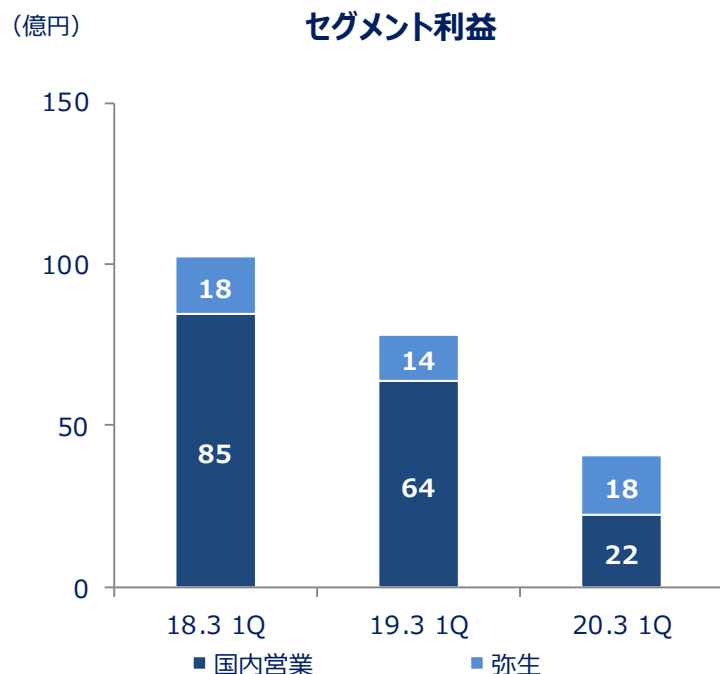
前年同期比 ▲38億円（▲48%）

- ✓ 生命保険の代理店手数料収益減少、営業貸付金利回りは維持
- ✓ 弥生は有償サポート会員増とパッケージ製品の売上増加

セグメント資産：10,001億円

前期末比 +404億円（+4%）

- ✓ 新リース会計基準によりオペレーティング・リースが増加



事業の状況

- ✓ 2018年に開始した事業承継支援はこれまでに2件の実績。全国の営業網を活用し、積極的に実績の積み増しを図る
- ✓ 引き続き、サービス収入の源泉の多様化を図る

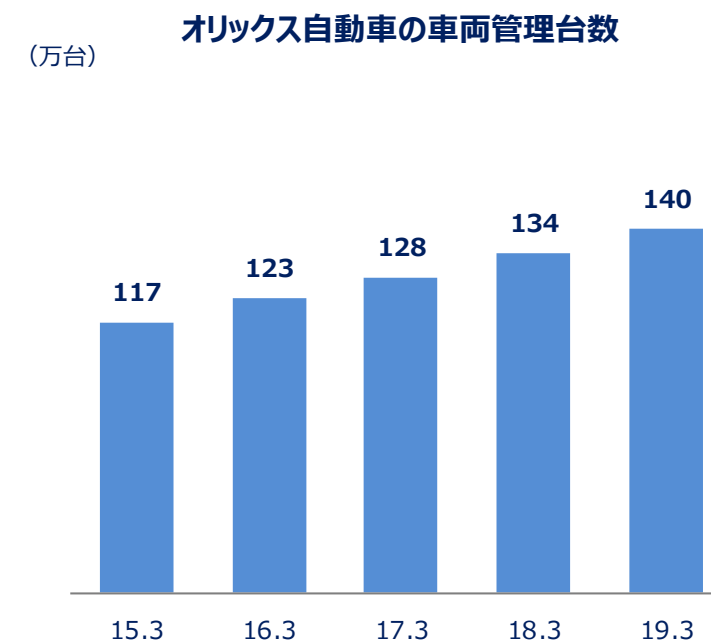
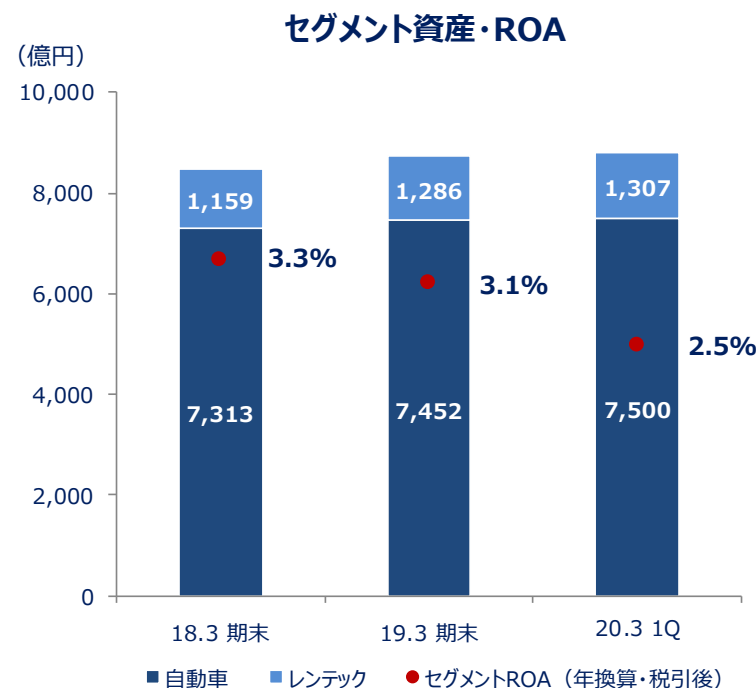
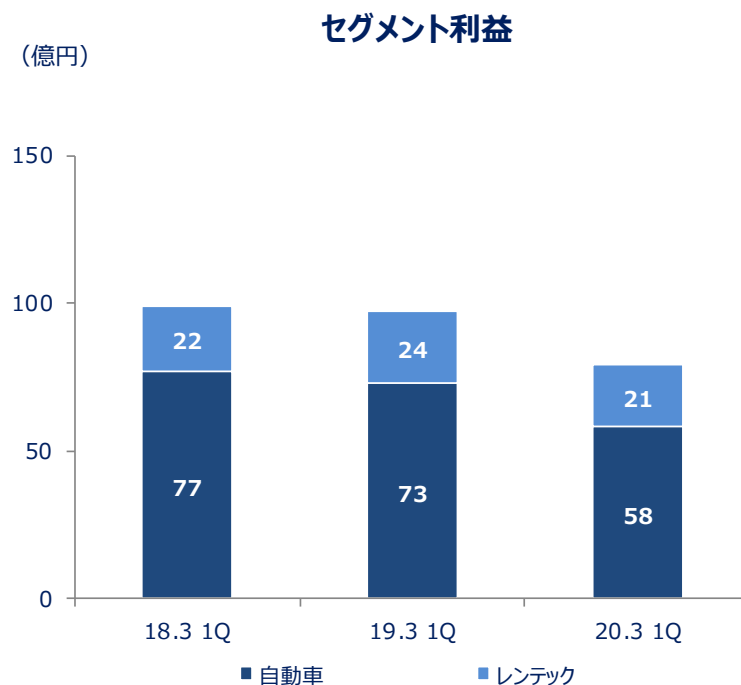
セグメント別業績（２）メンテナンスリース

セグメント利益：79億円 前年同期比 ▲18億円（▲18%）

- ✓ 自動車・レンテックともに増収となるも、販管費の増加等により減益
- ✓ 中古車売却益は11億円（前年同期比+2億円）

セグメント資産：8,807億円 前期末比 +69億円（+1%）

- ✓ 前期末比横ばい



事業の状況

- ✓ AI搭載型通信ドライブレコーダー「ナウト」のサービス提供、欧州レンタカー会社との提携によるインバウンド需要への対応を強化
- ✓ グループネットワークを活用した淀川変圧器（受変電・発電設備レンタル会社）の事業拡大を追求

セグメント別業績（3）不動産

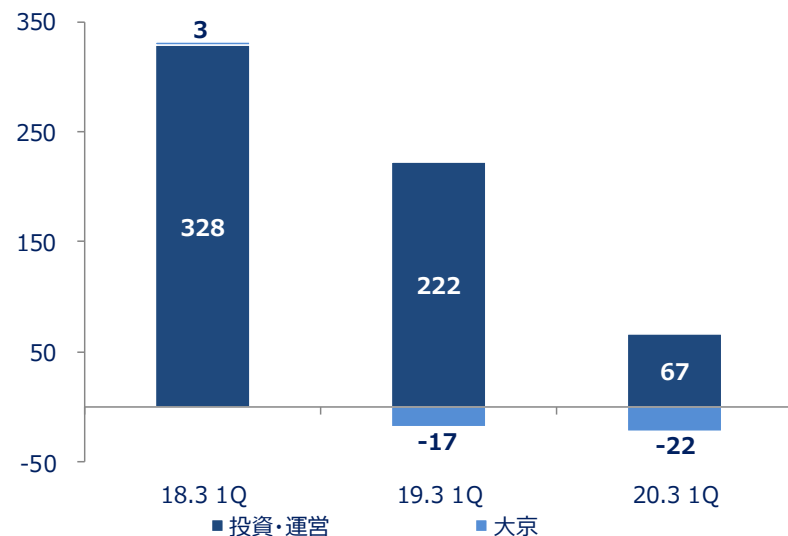
セグメント利益：45億円 前年同期比 ▲160億円（▲78%）

- ✓ 前年同期の大型売却益の影響により減益
- ✓ 不動産アセットマネジメントからの利益は安定的に推移

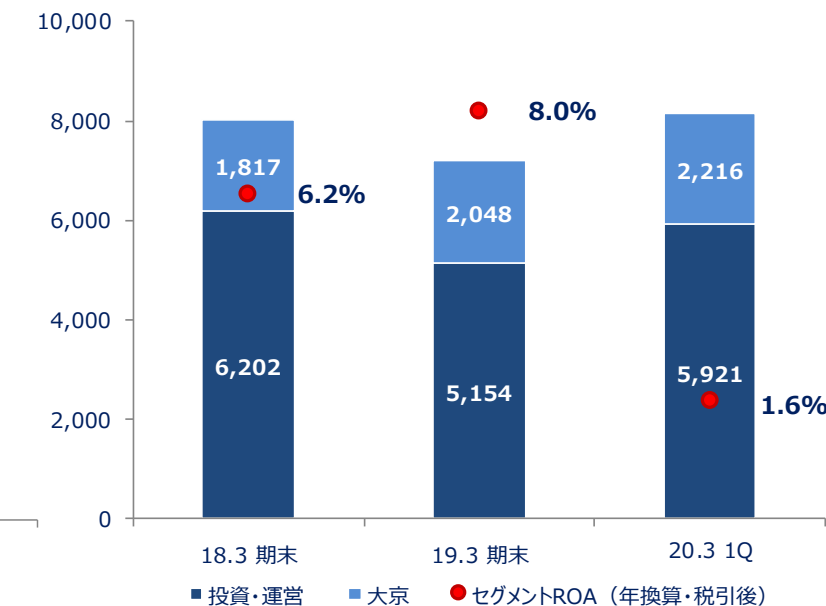
セグメント資産：8,137億円 前期末比 +935億円（+13%）

- ✓ 新リース会計基準によりオペレーティング・リース資産が増加
- ✓ 今期も一定の売却を進める

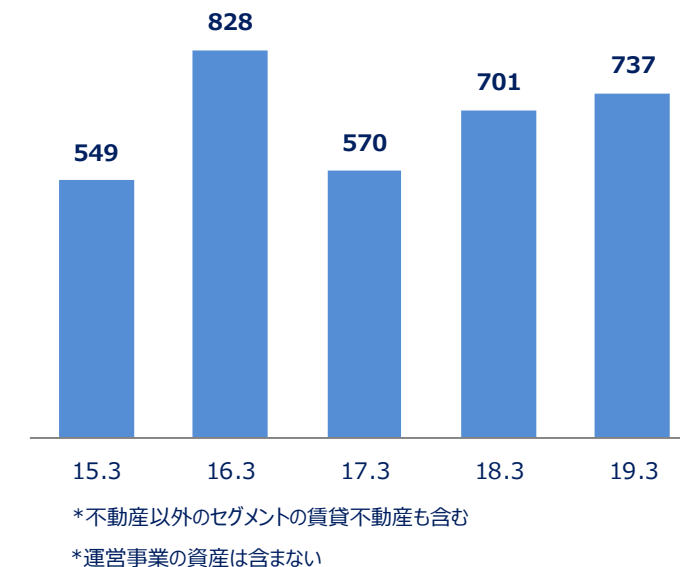
（億円） **セグメント利益**



（億円） **セグメント資産・ROA**



（億円） **賃貸不動産の含み益***



事業の状況

- ✓ 「別府温泉 杉乃井ホテル」リニューアル、大阪うめきた2期、金沢駅前開発などの大規模プロジェクトを推進
- ✓ 大京との一体経営に向け「開発」「流通」「管理・工事」の各機能におけるリソース・ノウハウ共有を進める

セグメント別業績（４）事業投資

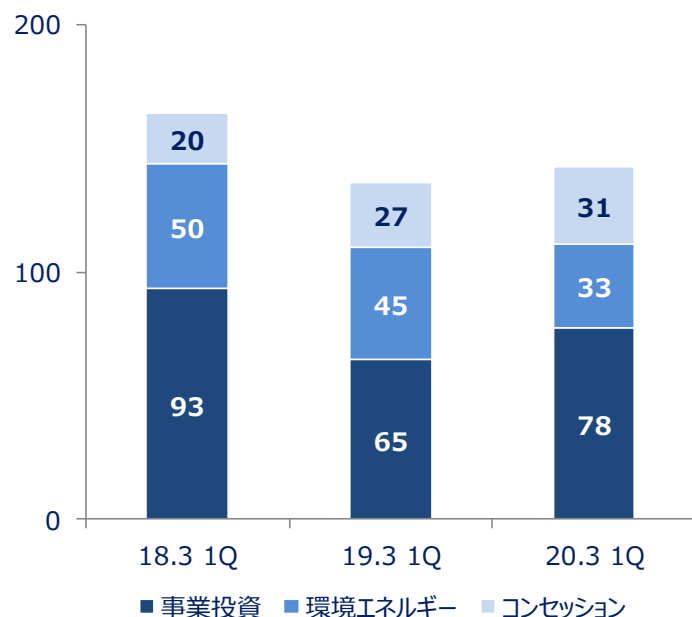
セグメント利益：142億円 前年同期比 +6億円（+4%）

- ✓ PE投資の売却益を計上、コンセッションは訪日観光客増加により増益
- ✓ 電力小売事業は減益となるも、国内の太陽光発電事業は堅調

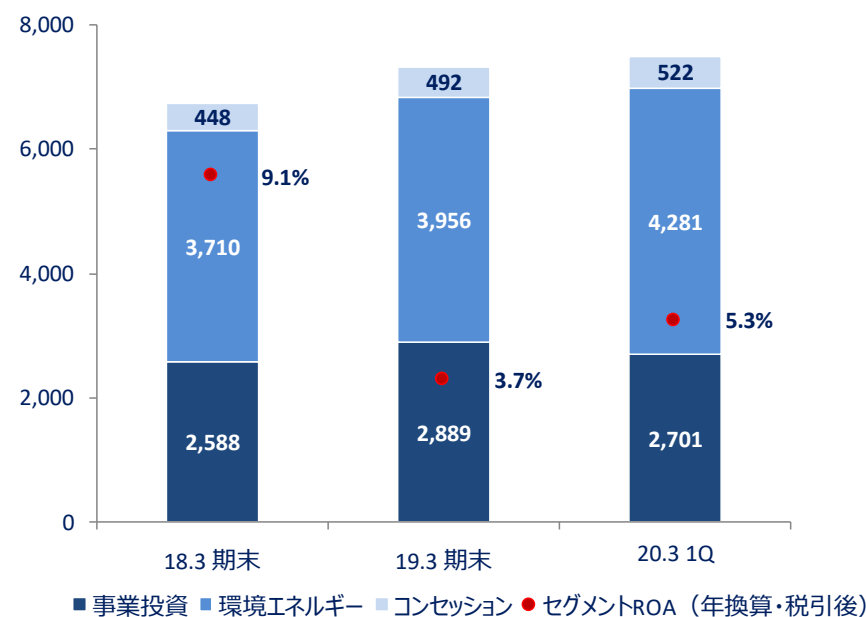
セグメント資産：7,503億円 前期末比 +167億円（+2%）

- ✓ 新リース会計基準により環境エネルギー関連の事業資産が増加

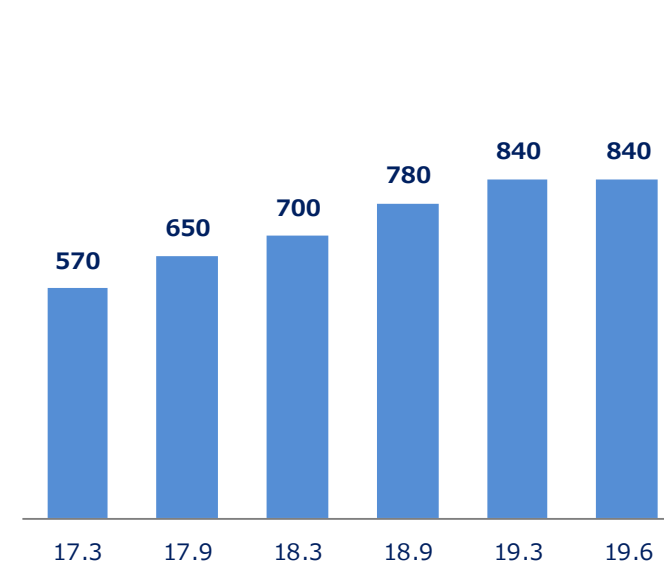
（億円） セグメント利益



（億円） セグメント資産・ROA



（MW） 国内の太陽光発電事業 稼働状況



事業の状況

- ✓ 国内の太陽光発電事業は順調に稼働（19.6末時点で1 GW確保）、安全運営と品質維持に向けた体制整備を進める
- ✓ PE投資は過去5年で1,000億円以上の投資利益を創出、長期的な戦略投資も視野にいれ投資先を発掘する

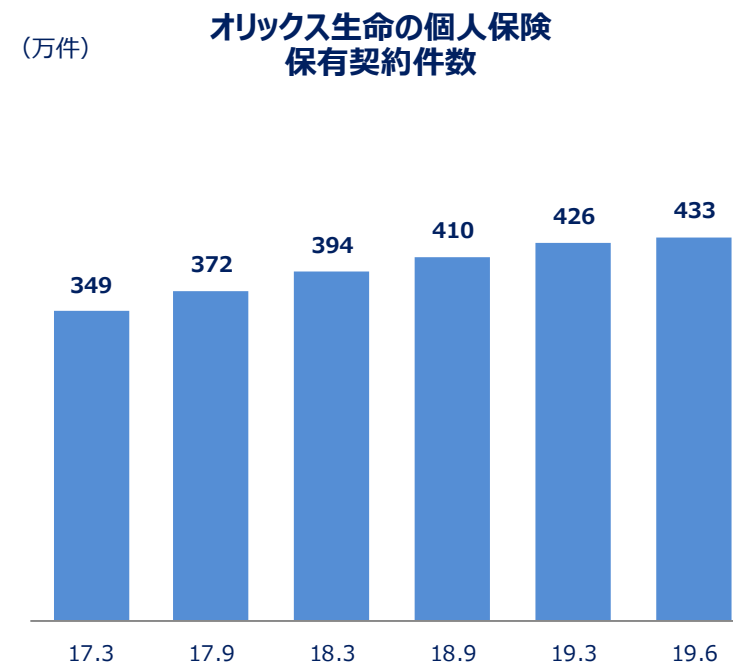
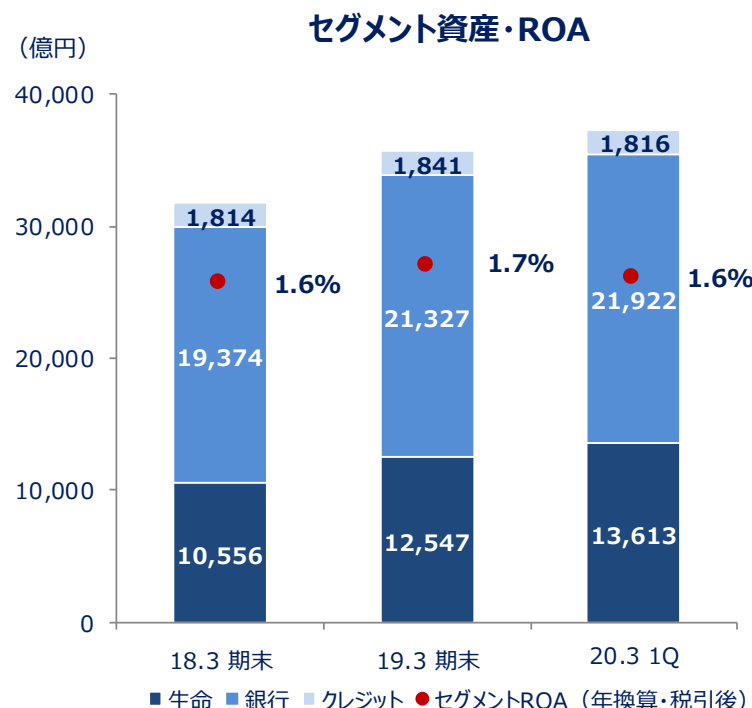
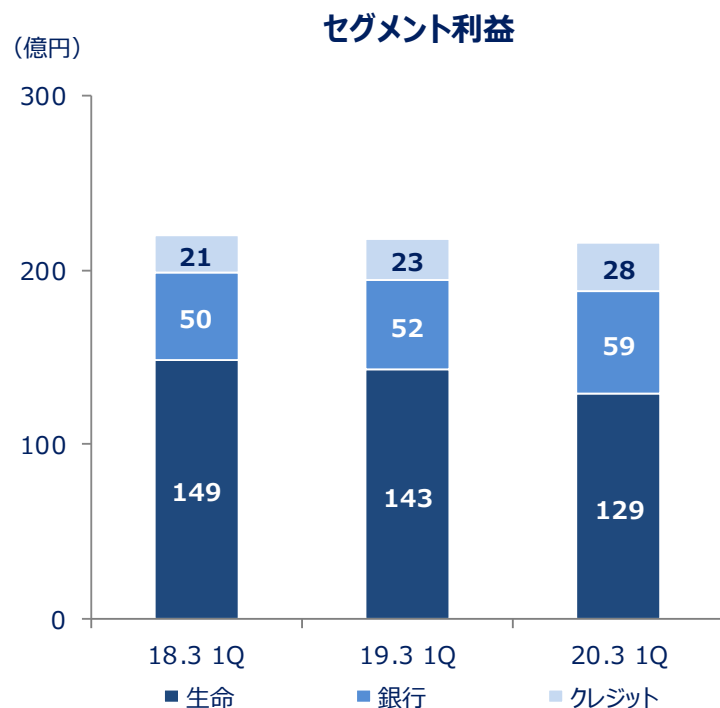
セグメント別業績（５）リテール

セグメント利益：216億円 前年同期比 ▲2億円（▲1%）

- ✓ 生命保険料収入は増加するも、売却益減少と販管費増加により減益
- ✓ 銀行・クレジットは金融収益が伸長

セグメント資産：37,351億円 前期末比 +1,636億円（+5%）

- ✓ 生命の投資有価証券、銀行の営業貸付金が増加



事業の状況

- ✓ 2019年4月にオリックス生命初の外貨建終身保険「Candle（キャンドル）」を商品ラインアップに追加
- ✓ 銀行は高い預貸率を維持、資金粗利ざやも2%水準で推移

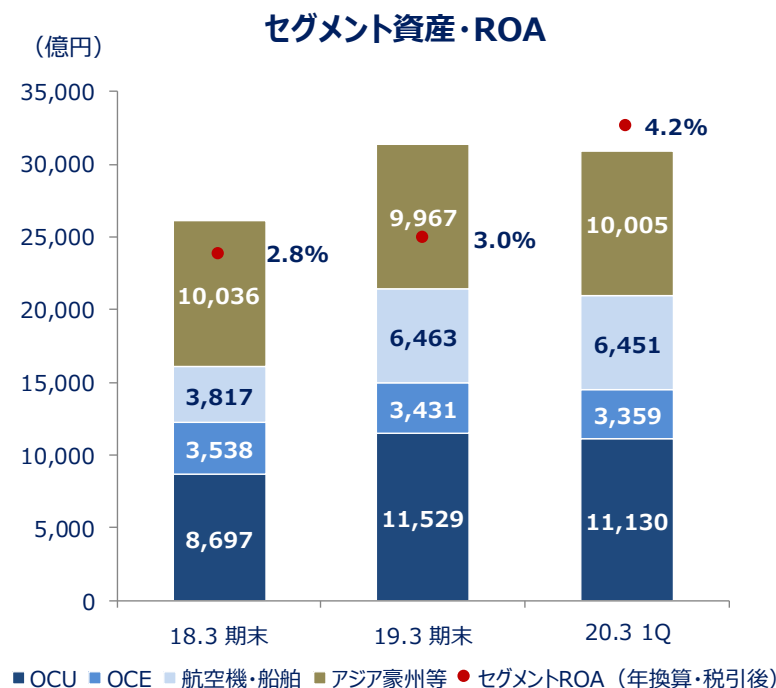
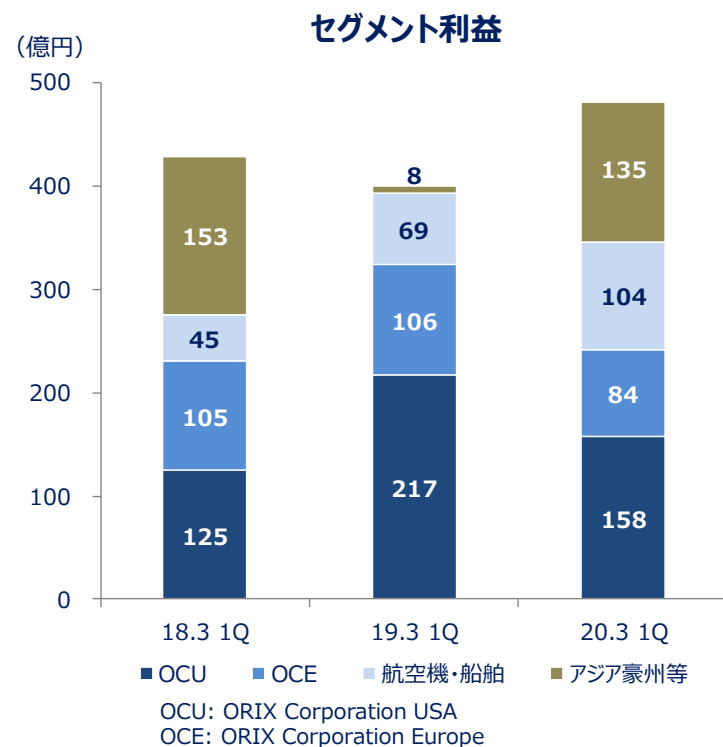
セグメント別業績（6）海外

セグメント利益：481億円 前年同期比 +81億円（+20%）

- ✓ 為替影響▲2億円
- ✓ 19.3期の新規投資からの利益、およびアジアでの売却益が貢献

セグメント資産：30,945億円 前期末比 ▲445億円（▲1%）

- ✓ 為替影響▲877億円を除くと、前期末比+432億円



新規投資による利益貢献

19.3期 大型投資案件	20.3期 1Q セグメント利益
NXT Capital (ローン組成・資産運用)	23億円
Avolon (航空機リース)	32億円

事業の状況

- ✓ 引き続きアセットマネジメント事業の多面的な展開を図る
- ✓ オリックスが有する国内法人投資家への航空機販売の拡大など、Avolonとのシナジーの追求

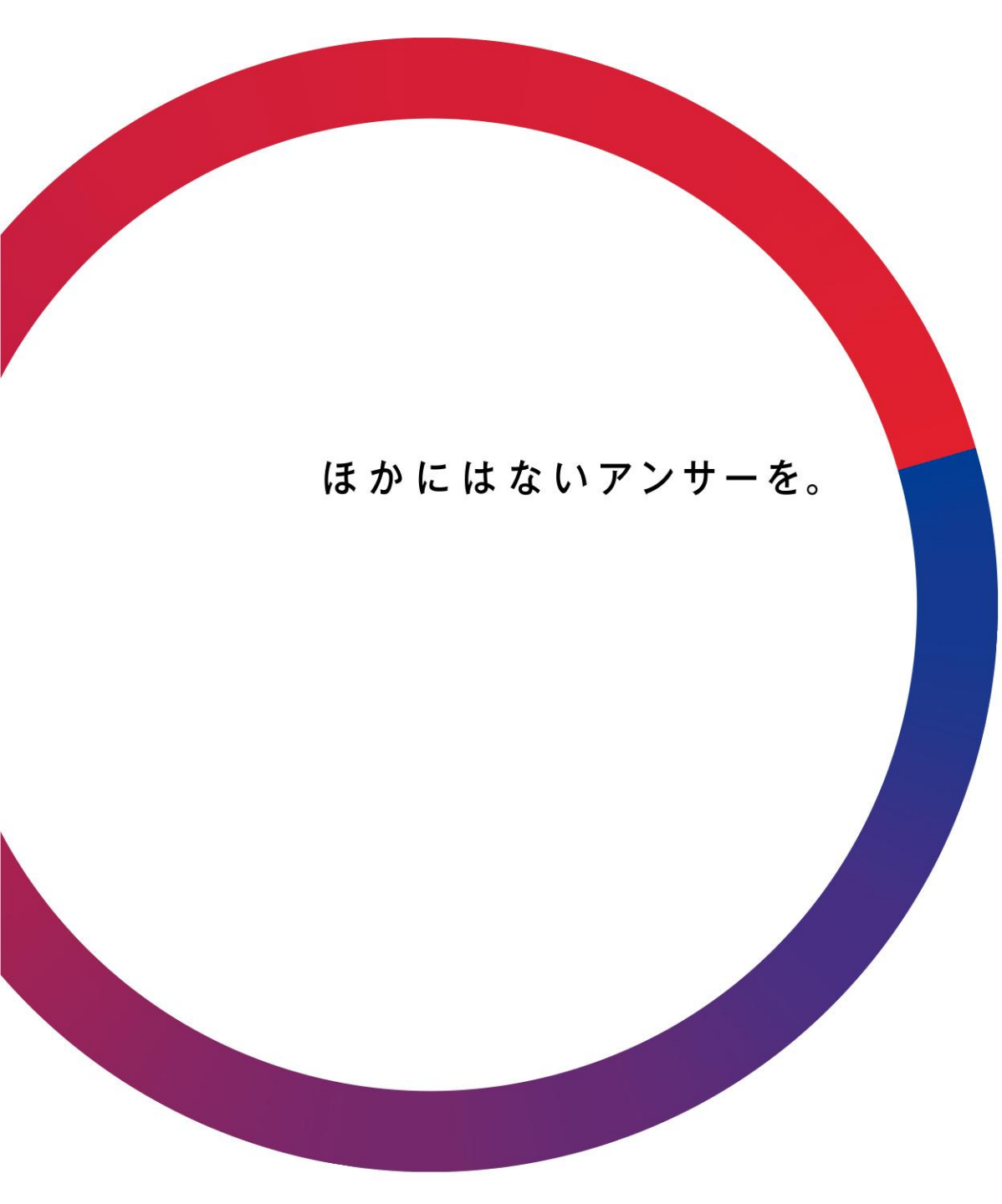
本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみに全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会（SEC）に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因（Risk Factors）」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

また、ハートフォード生命保険株式会社は、2015年7月1日にオリックス生命保険株式会社と合併し、現在はオリックス生命保険株式会社として引き続きお客さまのご契約をお守りしています。オリックス生命保険株式会社は、The Hartford Financial Services Group, Inc.、またはその関係法人の関連会社ではありません。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

A large circular graphic on the left side of the page, composed of a thick ring with a color gradient from red at the top to purple at the bottom.

ほかにはないアンサーを。

オリックスに関する追加情報については弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

投資家情報

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/>

IR資料室

URL: <https://www.orix.co.jp/grp/company/ir/library/>

オリックス株式会社 経営計画部

〒105-6135 東京都港区浜松町2-4-1

TEL : 03-3435-3121

FAX : 03-3435-3154